

第31回日本泌尿器科漢方研究会学術集会

会期： 2013/04/25 ~ 2013/04/25 会場：札幌プリンスホテル(北海道)

会長：布施秀樹(富山大学)

誌名：第31回日本泌尿器科漢方研究会学術集会講演要旨集

Page : 8

発行年： 2013

1. 女性泌尿器科疾患と漢方

女性医療クリニックLUNAグループ

LUNA骨盤底トータルサポートクリニック

○関口 由紀、畔越 陽子、金城 真実

前田 佳子、河路 かおる、藤島 淑子

(急性膀胱炎)

急性細菌性膀胱炎で、抗菌剤で治療後尿沈査と尿培養の結果が正常化したにもかかわらず、自覚症状が完全に改善しない患者の第1選択薬は猪苓湯である。さらに猪苓湯で2週間ほど経過をみても、完全に症状が軽快しない場合は猪苓湯合四物湯、五淋散、龍胆瀉肝湯などで1-2ヶ月経過をみる。

(腹圧性尿失禁と骨盤臓器脱)

東洋医学的には、骨盤底筋群や骨盤底を構成する韌帯の脆弱化や欠損に関しては根本には気虚があり、さらに痛みが出現する場合には、瘀血が合併すると考えている。

比較的使用しやすい補氣剤は、六君子湯、補中益氣湯、人参湯等である。瘀血を治療する駆瘀血剤は、当帰芍薬散、加味逍遙散、桂枝茯苓丸、桃核承氣湯等である。また葛根湯や、麻黃附子細辛湯などの麻黃含有方剤が効果的な場合もある。

(過活動膀胱)

漢方的には、高齢者と若年者ではちがう視点で漢方を使用している。

腰痛、足弱、耳鳴りなど老化症状を伴う排尿困難を伴う頻尿を認める場合には、まず補腎剤の代表である八味地黄丸を使用してみる。さらにより冷えており、下肢のしびれ、浮腫、視力の低下などの訴えがあれば牛車腎氣丸とする。足がぼてるという訴えがあれば六味丸がよい。さらにこれらの方剤をのむと胃部不快感を訴え、さらに口渴や易疲労感を訴える患者には清心蓮子飲に変方する。一方若年者の過活動膀胱の場合、膀胱痛症候群/間質性膀胱炎と同様の漢方薬の使い方をしている。

(膀胱痛症候群/間質性膀胱炎)

膀胱痛症候群/間質性膀胱炎の漢方治療では、局所的な症状をとる水滸の治療方剤(猪苓湯・龍胆瀉肝湯・五淋散等)と、全身の内臓全体の基礎代謝低下を治療する“冷え”を改善する治療方剤(当帰四逆加吳茱萸生姜湯・加味逍遙散・安中散・真武湯等)の両方をうまく併用する必要がある。